

半世紀前に『ルポ・精神病棟』を書いた
ジャーナリスト・大熊一夫が
87歳にして筆をカメラに持ち替えて
脚本・撮影・編集を一人でこなし
1時間半のドキュメンタリー映画を制作！

日本の精神病院は約30万床もあります
地球上の全精神科ベッドの20%以上です
入院期間も異常に長いうえに
今この時点で1万人以上が
ベッドに縛り付けられています
中の様子はほとんどわかりません
こんな日本特有の「現代の秘境」に迫ります

脱・精神病院への道

新作ドキュメンタリー映画 特別試写会

鼎談「収容主義をぶち壊す処方箋」

日本の Matto の町を考える会
大熊一夫（代表）・伊藤順一郎（副代表）・福井里江（事務局長）

日時 **2024年10月27日（日）**

13時00分～16時30分（開場 12時30分）

場所 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）

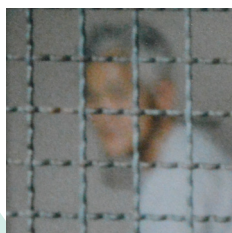
協力 認定NPO 法人地域精神保健福祉機構

定員 500人

参加費 事前申込み 1500円

当日参加 1800円

※当日参加は、定員に空きがある場合のみとなります



都内某精神病院の保護室
撮影：看護師

プログラム

13時00分～14時30分 映画試写会

14時30分～14時45分 休憩

14時45分～16時30分 鼎談

Peatix
ピーティクス



申込み Peatix から → <https://matto202410.peatix.com/>
事前申込み〆切 **10月20日（日）**

問い合わせ先 「日本の Matto の町を考える会」映画試写会事務局
mattotokyo@gmail.com



大熊 一夫監督 (おおくま かずお)

ジャーナリスト、元朝日新聞記者、「日本の Matto の町を考える会」代表、元大阪大学大学院教授。1970 年に都内の私立精神病院にアルコール依存症を装って入院し、『ルポ・精神病棟』を朝日新聞に連載、鉄格子の内側の虐待を白日のもとに。2007 年フランコ・フランカ・バザーリア財団から第 1 回バザーリア賞を贈られる。

著書：

『ルポ・精神病棟』（朝日新聞社、30 万部で絶版、いま電子書籍加筆復刻版販売中）

『新ルポ・精神病棟』（朝日新聞社、宇都宮病院入院者怪死事件を詳報）

『精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本』（岩波書店、いま 16 刷）

『精神病院はいらない！』（現代書館、いま 3 刷）

など著書多数。

会場へのアクセス

一橋大学一橋講堂

〒101-8439

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

学術総合センター内

- 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口)
徒歩 4 分
- 東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口)
徒歩 4 分

